

Information

がん医療市民公開講座のご案内

今回のテーマは『前立腺がん』

平成21年度 第2回 がん医療市民公開講座

気になる
「前立腺がん」の話

前立腺がんを早くみつげるためには
山口大学大学院
医学系研究科 泌尿器科学分野教授
松山 豪泰 氏

前立腺がんはどうやって治すの？
下関市立中央病院 泌尿器科医長
吉弘 悟 氏

質疑応答

入場無料
お申込み
先着200名

場所 海峡メッセ下関
山口県国際総合センター
国際会議場 10階

日時 2010/2/27(土)
14:00~16:00

主催 ●下関市立中央病院
後援 ●山口県 ●下関市教育委員会 ●下関市医師会 ●下関市連合婦人会
申込み ●お申込みは、電話・FAX等で申込まれるか、当院外来に備え付けの申込書をご利用下さい。 ※必要事項…住所・氏名・連絡先

下関市立中央病院 庶務係 TEL 083-224-3831
〒750-8520 下関市向洋町1-13-1 FAX 083-224-3838

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせについては

地域医療連携室

083 224-3860 083 224-3861

編集後記

寒中お見舞い申し上げます

ブリッジも第40号より、広く連携医の先生への広報紙として装いを変えました。本号では、蛍クリニックの堀地先生にご寄稿賜り感謝いたします。昨年からの新型インフルエンザの嵐も収まりつつありますが、ワクチン接種等課題も残りました。政権が変わり、医療費のマイナス改定はないようですが、医療を取り巻く状況が厳しいことには変わりはありません。当院も病診連携でお役に立てるように頑張りますので、今後とも皆様方の温かいご支援をよろしく願いいたします。

地域医療連携室長 坂井 尚二



2010年 Vol. (平成22年) 2/15 42
下関市立中央病院
広報年報委員会
〒750-8520 下関市向洋町 1-13-1
TEL 083-231-4111
FAX 083-224-3838

e-mail cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp ホームページ http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/byoin/

目次	● 連携医の声 蛍クリニック 堀地 義広先生 1	● レポート がん医療市民公開講座 「白血球・リンパ腫の治療最前線」 小川 亮介 3
	● コラム 向洋の丘から 看護部長 室井 由美子 2	● Information がん医療市民公開講座 気になる「前立腺がん」の話 4
	● 専門資格取得者の紹介 検査部主査 松原 伸夫 2	

連携医の声

蛍クリニック

院長 堀地 義広先生



下関市立中央病院の皆様には、平素より大変お世話になっており、厚く御礼申し上げます。

私は、平成10年4月より下関に帰ってまいりまして、金比羅町で胃腸科・肛門科・外科を標榜しております。下関西高から熊本大学を卒業し、第一外科入局後、20数年ぶりの帰関でした。医局の関係で厚生病院には短期手伝いに来た事はありますが、市内の病院に勤務した事はありません。ただ、市内には貴院外科の篠原先生始め、西高の同級生の医者が7、8人おり、なにかと助けられております。

さて、貴院には、全ての科に渡って大変お世話になっておりますが、当院の特徴から、消化器内科・外科の先生方には格別お世話になっております。当院で発見した癌症例始め、消化管出血等の緊急症例に対しても、的確な対応を頂き感謝しております。又、逆に、当院が得意とする肛門疾患に関しては、逆紹介も頂き、理想的な病診連携かと自負しております。

現在私は、医師会の地域医療担当理事をさせて頂

いておりますが、4疾患5事業といわれる医療計画の要は、病診連携にあると考えます。幸い市内には4つの基幹病院があり、各病院の先生方や病診連携室の方々のご努力のお陰で、比較的円滑な連携が出来ていると思います。ただ、今後医師不足等の問題から、限られた医療資源をいかに有効に使うかという事が重要となってきます。4病院が、より機能分担を図り、下関市全体を俯瞰した対策が必要だと思っております。

昨年末、病診連携・救急に対するアンケートを医師会員にお願いしました。概ねうまくいっているというご意見が主でしたが、個別の事例を挙げられた意見で、最も素晴らしい対応をする病院として挙げられたのは中央病院で、逆に、この病院だけには送りたくないというのも中央病院でした。市立という事で医師会員・市民共に、温かい目と同時に、厳しい目が注がれる面があると思っております。

今後、独立行政法人となられ、更なるご発展を祈念すると共に、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

「見る目、触れる手、聴く姿勢 心をつなぐあなたの笑顔」

看護部長
室井 由美子

当院は、地域医療の担い手として皆様のご協力を得ながら医療サービスの充実を目指し地道な努力を続けております。

激動する世の中の大きな流れの中で医療サービスのあり方も、変化が求められています。しかしながら、怪我や病と向き合う人の気持ちと、それをサポートする私たち医療従事者の思い、つまり人が人を思う気持ちはこれからも変わりはありません。

病棟のナースステーションの壁にこの様な一文があります。

「見る目、触れる手、聴く姿勢 心をつなぐあなたの笑顔」

看護の「看」の字をもじって、看護の基本が簡潔に表わされている、この言葉が私は好きです。そして若い後輩たちにも好きになってほしいと願っています。

どの様な状況にあっても、五感を働かせ、相手を尊重し寄り添うことが自然にできる看護師であってほしいと思います。

その為にも職場環境を整え、安全で安心な信頼される看護が提供できるよう人員の確保をはじめとする諸問題に、全力投球で取り組んでいきたいと思っています。今年も職場が元気で明るくなるように努力していきますのでよろしくをお願いします。



検査部
松原 伸夫 主査

専門資格取得者の紹介

認定臨床微生物検査技師資格を取得して

平成21年度認定臨床微生物検査技師制度試験に合格し認定資格を取得しました。学会・論文発表などの受験資格や筆記・実技試験のハードルが高いため毎年受験者は少なく、今年度の受験者数は53人でした。昨年度は43人受験して30名合格しています。平成21年1月1日時点で認定臨床微生物検査技師登録者数は437名、山口県では今回の合格で7人となりますが、下関医療圏では私一人です。

認定臨床微生物検査技師の必要性は、医療の高度化で感染症及び微生物検査が多様多様になり、検査技師の熟練度・能力が検査成績に大きく影響するようになり、医師、患者への適確で高精度な検査結果の報告が必要になったことであります。

認定臨床微生物検査技師制度とは、臨床微生物、検査及び感染症関連5団体（日本感染症学会は2009年より）が、臨床微生物学と感染症検査法の進歩に呼応し、これらに関連する臨床検査の健全な発展普及を促し、有能な認定微生物検査技師の育成を図り、より良質な医療を国民に提供することを目的とし、2001年度から認定を開始した制度です。本資格制度は、5年毎の更新制で、臨床微生物検査を高度に実践できる能力を認定するものです。また医療関連の感染制御においても幅広く貢

献できる資質を持った人的資源であることから、実務的に医療施設内の感染制御に積極的に取り組んでいる認定微生物検査技師のうち必要条件を満たした者を日本臨床微生物学会が感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）として認定する制度を2006年に発足し2009年度まで360名を認定しています。

近年、院内感染対策主要4職種（医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師）ではすでに関連学会による認定制度がスタートされており、多くの医療機関で感染対策の活動内容がさらに充実されているところです。当院においても医師、薬剤師はすでにスタッフがいます。

平成19年に施行された改正医療法により、感染制御体制の整備が必要となり、厚生労働省より「医療機関における院内感染対策マニュアル作成のための手引き」が示されました。その中に感染管理者およびICMTの構成者は、学会等の認定する院内感染対策に関する資格を取得する方が良いとあります。今後はICMT取得を目指し、当院を認定臨床微生物検査技師制度研修施設にするように取り組むとともに、当院の感染症診断・治療や病院感染対策に寄与し、また後輩を育成していくのが認定技師の責務だと考えています。

REPORT

2009年12月13日開催
がん医療市民公開講座「白血病・リンパ腫の治療最前線」

血液内科
(現:九州厚生年金病院 部長)
小川 亮介



去る平成21年12月13日（日）に海峡メッセ下関において約190名の市民の方に参加していただき、地域がん診療連携拠点病院（下関医療圏）である当院が主催するがん医療市民公開講座が開催されました。平成21年度第2回の今回は白血病や悪性リンパ腫など血液悪性腫瘍の理解を深めるために「がんにならない、がんに負けないー放置してよい貧血といけない貧血ー白血病治療の最前線」をテーマに2つの講演が行われました。

第一部は、「進歩する白血病・リンパ腫の治療」と題し、白血病や悪性リンパ腫の症状や検査、診断の概要に続き、原因となる遺伝子異常を標的にしたグリベック（bcr-abl阻害薬）やがん細胞に特異的に発現するがん抗原を標的としたリツキサン（抗CD20抗体）など進歩著しい最新の治療によって驚くべき予後の改善がみられていることが講演されました。更に、不治の病と思われてきた白血病については分子標的薬や造血幹細胞移植の発展で、“もはや不治の病ではない”ことが強調されました。

第二部は、血液幹細胞の成熟・分化の研究分野で

は世界の第一人者である九州大学大学院医学研究院病態修復内科学（第一内科）の赤司浩一教授による「血液・免疫疾患治療の最前線」でした。平均寿命と余命の違いに始まり、話題のiPS細胞など遺伝子操作による細胞療法の可能性をクローン羊ドリーと比較して最先端の再生医療に言及した後、悪性リンパ腫や白血病の症状、診断、治療法について簡潔に市民の方にわかりやすく講演していただきました。そして、最後には日本の血液疾患治療をリードする九州大学病院での血液幹細胞移植の成績や第一内科循環器グループで行われている全身各部位の動脈硬化性病変に対する末梢血管インターベンション（腎動脈、下肢動脈）など最先端医療も紹介されました。

第三部では、参加された方々からいただいた質問を赤司教授に解答していただきました。

血液悪性腫瘍の最先端治療を紹介すると共に、がん診療の地域連携をますます深める一助となる意義ある講演会を開催することができました。

2010年2月27日開催
がん医療市民公開講座

気になる「前立腺がん」の話

泌尿器科部長
吉弘 悟

去る2月27日、海峡メッセ下関において当院が主催するがん医療市民公開講座が開催され、定員を大きく上回る224名の市民の方々に参加していただきました。平成21年度の第2回目となる今回は、前立腺がんをテーマに2つの講演が行われました。

第1部は、山口大学泌尿器科の松山豪泰教授に「前立腺がんを早くみつけるためには」と題し、講演していただきました。前立腺がんの発生には環境要因と人種的遺伝背景が関与しており、欧米人に多くアジア人に少なく、近親者に前立腺がんの方が1人いると危険率は2倍、2人いると5倍になるという報告が紹介されました。次に前立腺がんを早く発見するために、血液検査でPSA（前立腺特異抗原）が用いられており、PSA検診の有用性について解説がありました。PSAは前立腺がんの病期の進行に伴って上昇し、米国の研究では検診率が10%だと転移がんの割合が25%、70%だと5%以下に減少するといわれ、ヨーロッパでの研究ではPSA検診群の死亡率が20%低下したと報告され、50歳以上で前立腺がんの早期発見にはPSA検診が有用であることは明らかでした。さらに食事と前立腺がんの関係では、乳製品・肉類の飽和脂肪酸が発生を高め、大豆製品のイソフラボンが発生率を低下させることが紹介されました。

第2部は、私が「前立腺がんはどうやって治すの？」と題し、前立腺がんと診断された後の画像検査



や病期分類の概要に続き、がんの進行度や悪性度、患者さんの年齢、合併症の有無、患者さんの希望によって治療方針が決まることを講演しました。治療には全身療法として内分泌療法（増殖因子である男性ホルモンを除去する治療）と化学療法、局所療法として根治手術（原則として75歳以下）と放射線療法があることを紹介しました。

第3部は、ご参加の方々から寄せられた質問を松山教授に回答していただき、講演内容の理解を深めることができました。

今回、増え続ける前立腺がんをテーマに選んで、根治可能な早期がんの発見のためにPSA検診の必要性を発信することで、地域がん診療連携拠点病院の啓蒙活動の一環として有意義な講演会を開催することができました。

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせについては
地域医療連携室

083 224-3860 083 224-3861

編集後記

近頃世に流行るものにツイッターあり、その140字の蛇足です。4月に新人医師が多数赴任し、病院の「空気」を若返らせる新進気鋭として活躍中です。同時に診療報酬改訂で、国の認定更新となった地域がん診療連携拠点病院に関連するものもあります。諸先生方には患者様ご紹介をお願いします。

吉田 順一

2010年 Vol. (平成22年)
4/15 43
下関市立中央病院
広報年報委員会
〒750-8520 下関市向洋町 1-13-1
☎083-231-4111
FAX 083-224-3838

e-mail cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

ホームページ <http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/byoin/>

目次	● 連携医の声 ふごの内科クリニック 畚野 信太郎先生 1	● ご紹介 新任紹介 2・3
	● コラム 向洋の丘から 内科系統括部長 真弓 武仁 2	● レポート がん医療市民公開講座 吉弘 悟 4

連携医の声

ふごの内科クリニック
院長 畚野 信太郎先生



下関市立中央病院の皆様には、平素より大変お世話になっており、心より感謝いたします。私は平成10年に久留米大学医学部を卒業後、山口大学医学部第一内科へ入局し、平成11年に研修医として関門医療センター、平成12年に愛媛労災病院、平成13年からは再び関門医療センターに勤務しておりました。

私の父親が平成4年にふごの内科クリニックを開院し、地域医療のために尽力しておりましたが、平成13年9月に逝去。当時、医師になって4年目（当時29歳）の私がふごの内科クリニックを継承する事となりました。医師としては経験不足で、不安を抱えながら日々の診療に従事しておりました。現在でも経験不足の私にとって、難しい症例や急性疾患などで、治療方針について判断に困る事があります。

また胸部症状、腹部症状、めまいなどは、患者さんが訴える症状として多くみとめます。テレビや雑誌、新聞等では病気や症状について詳しく紹介されており、当てはまるような症状があると「もしかし

て・・・」と、不安を抱えて患者さんは診療所を訪れます。こういった症例の中には、診療所レベルでは解決できないような疾患が隠れる可能性も否定できません。

これらの場合には病診連携を活用させていただいてます。地域医療連携室を通じて、下関市立中央病院の各科の諸先生方、医療スタッフの皆様にご協力いただいています。この場をお借りして改めて感謝いたします。

下関市立中央病院のホームページや郵送されてきた茶封筒には「安心の優しい医療を」と、病院の理念が記載されておりました。また紹介させていただいた患者さんに感想を尋ねると、大きい病院に紹介してもらって安心ですという声が多く聞かれます。患者さんは病院や診療所に安心を求めて受診されているのだなと改めて実感しています。

今後とも色々な気持ちを抱えた患者さんを紹介させていただくと思います。まだまだ未熟な私ではございますが、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

コラム 向洋の丘から

連携医の先生方には、いつも大変お世話になっており、有難うございます。当院は独立行政法人化をめざすことになり、その経営の将来には厳しいものを感じますが、医師の確保には、少し光が見えて来た気がしています。

循環器科は、6月に3人体制になり、10月には4人体制になる予定で、緊急の心カテにも対応できるようになります。腎臓内科は、2人から3人に増員されます。内科も1人から2人になりました。ただし呼吸器科は、退職や転勤により2人となっており、九大の呼吸器科から

外来に1人応援に来て頂いています。脳外科も2人から3人になり、患者数がかなり増加するのではないかと期待しています。

ところで、最先端の再生医療では、細胞外マトリクスの粉を切断されたヒトの指の切断端に振りかけ、指を再生させる治療を行っており、指が生えてきて爪まで再生されたのを、テレビで見て驚きました。中央病院にとっての細胞外マトリクスは何なのか、それが問題です。

内科統括部長

真弓 武仁

新任紹介

4月1日より19名の医師が着任いたしました。特に脳神経外科には、3名が配属されました。昨年までは、人員不足でご迷惑をおかけしましたが、迅速な救急対応が可能となりました。当院は、今後とも地域医療の拡充に努めてまいりますのでよろしくお願い致します。

脳神経外科



部長
中村 隆治

脳神経外科



医師
波多江 龍亮

脳神経外科



医師
道脇 悠平

内科



医長
井川 敬

消化器科



医長
小川 和広

消化器科



医師
一瀬 理沙

放射線科



医師
上田 高顕

スーパーローテート



研修医
志賀 直子

スーパーローテート



研修医
和田 晋一

スーパーローテート



研修医
村田 真帆

整形外科



医師
河野 裕介

整形外科



医師
増田 圭吾

整形外科



医師
岡本 重敏

外科



医長
宮竹 英志

外科



レジデント
後藤 佳登

腎臓内科



医長
前田 大登

腎臓内科



医師
那須 誠

耳鼻咽喉科



医長
大藏 謙治

呼吸器外科



医長
大山 真有美

緩和ケア研修会 のご案内



下関市立中央病院 第2回がん診療に携わる医師に対する 緩和ケア研修会

主催: 下関市立中央病院
後援: 下関市医師会

日時: 平成22年 7月31日(土)14:00~21:30
8月 1日(日) 9:00~17:40

場所: 下関市立中央病院 2階 講堂
〒750-8520 下関市向洋町一丁目13番1号

定員: がん診療に携わる医師 24名
※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

参加費: 無料 但しお弁当代・お茶代(2日分)として2,000円をいただきます。

内容: 講義、ワークショップ、ロールプレイ等
(がん性疼痛等の身体症状および精神症状に対する緩和ケア、コミュニケーション)

申込方法: 申込用紙にもれなくご記入の上、以下のFAXまたはE-mail でお申込ください。
※申込用紙は当院のホームページからダウンロードできます。
(<http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/byoin/indexpc.html>)
下関市立中央病院経営管理課庶務係
TEL:083-224-3831 FAX:083-224-3838
E-mail: cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

申込締切: 平成22年6月21日(月)

がん患者とその家族が早期から、切れ目なく緩和ケアを受けられるようになるために

すべてのプログラムを修了すると、厚生労働省健康局長より修了証が授与されます。

The PEACE project

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせについては

地域医療連携室

083 224-3860 083 224-3861

編集後記

「週刊こどもニュース」をご存知ですか。これは、日々のニュースを子どもたちにわかりやすく解説することを目的にしたNHKの番組です。以前のお父さん役の池上彰氏は子どもたちに伝えたい事をわかりやすく伝えておられ、勉強させられます。大人には通じる常識が子どもには通じません。子どもたちは、わからない場合にはわかるように説明してくれるまで質問してきます。医療従事者にとって「わかりやすく説明できる」力は不可欠です。伝える力を培うには、1) 深く理解していないとわかりやすく説明できない 2) 教科書的な説明はわかりにくい 3) 何を取り、何を捨てるか・・・を考えながら診療しているこの頃です。

外科系統括部長 前田 博敬



2010年 Vol. 44
(平成22年)
6/15
下関市立中央病院
広報年報委員会
〒750-8520 下関市向洋町 1-13-1
083-231-4111
FAX 083-224-3838

e-mail cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp ホームページ <http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/byoin/>

目次	● 連携医の声 松涛会 彦島内科 大田 純夫先生 1	● ご紹介 新任紹介 2
	● コラム 向洋の丘から 院長 小柳 信洋 2	● ご案内 新型MRI稼働開始 江本 拓也 3
		● Information 緩和ケア研修会 4

連携医の声



松涛会 彦島内科

院長 大田 純夫先生



下関市立中央病院の皆様には、平素より大変お世話になっており、心より御礼申し上げます。投稿の機会を頂きましたので当院を紹介させていただきます。

当院の歴史は長く、今年12月で開院50周年を迎えます。1960年12月、現松涛会理事長の斎藤 正樹が彦島江の浦に斎藤内科を開設(1981年6月には安岡病院を開設)。2005年6月、斎藤内科が隣接地に新築移転し彦島内科と改名、私が院長に就任し、丁寧・分かりやすさをモットーに診療にあたっています。

早くからデイケアを併設していた関係か、移転当初は介護が必要な方専門の診療所とされていたようで、「私はここで診てもらえるのかね?」という質問が度々でした。当院は安岡・綾羅木・山の田・彦島地区に医療・介護・福祉事業を展開する松涛会グループの彦島地区の診療所で、通所リハビリ(デイケア)、ショートステイを併設、またグループ内の居宅介護支援事業所、訪問介護ステーション、訪

問看護ステーション、認知症専門サービス(脳いきいき いるかサービス)も隣接しています。

彦島地区のリハビリ・介護レベルアップを目標に、スタッフ・機器ともにこの5年で徐々に充実し、退院後のリハビリにも対応可能となりました。

診療所では、一般診療と予防医学が重要なウエイトを占めていますが、今後在宅医療のウエイトは増していくと思われまます。これら関連施設と必要な時に随時顔を見ながら連携がとれることが当院のメリットと考えています。

医師一人の診療所では限界もありますが、訪問診療にも力を入れ、隣接する訪問看護ステーション等と緊密に連携をとり、心・脳血管障害、神経難病、呼吸不全、末期癌など在宅療養をされる患者さんのバックアップを行っていく所存です。

当然のことながら在宅医療は急性期病院や慢性期病院との連携無しには成り立ちません。無理な願いをすることも多々あるかと思いますが、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

新緑の候、先生方にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成21年度の決算状況のご報告をいたします。6億円余の赤字決算となりました。先生方のご支援をいただきながら誠に申し訳ない思いです。中途退職者が予想以上に多くその退職金もありますが、何より医師欠員の補充ができなかったことが大きいと思います。医師欠員1名あたり約1億円の減収になるだけでなく、残った医師の負担増や他の診療科への不便も少なくありません。

平成24年度の独立法人化を控える中央病院としては早急な経営立て直しが迫られています。さいわい、平成22年度からは循環器科、脳神経外科、腎臓内科がともに3名体制となり急患対応も含めまして先生方のご要望にこれまで以上にお応えできるのではないかと考えています。一層のご支援をお願い申し上げます。

なお、今回は「向洋の丘から」と題しての自由エッセイが主題ですが、院長挨拶が相変わらず堅いものとなっていましたことをご容赦ください。

平成22年3月より新型MRIが稼働を開始しました。アメリカのGE製、Signa HDxt(1.5T)です。

まず大きな特徴としては2つあります。旧型機にくらべて大幅に画質が向上しているのは言うまでもありませんが、全身各部位をvolume dataとして撮像できるようになり、撮像後に任意の断面で読影が可能になりました。また局所磁場の不均一性を改善できたため、元来MRIの特徴である脂肪抑制が以前よりも均一にかかりやすくなり、特に頸部や頸椎、肝臓、乳腺などの脂肪抑制併用画像が鮮明になっています。体内金属周囲のアーチファクトも低減され、金属周囲の観察が容易となりました。

その他の新たな特徴をいくつか述べてみます。

1: MR angiography, MR venography

頸部から頭部までの広範囲で血管が一度に撮像できるようになりました。また造影剤なしで腎動脈や下肢の動静脈が撮像可能となりました。造影剤を用いた時より画質は劣りますが、動脈の石灰化が高度な場合や腎機能が悪く造影剤が使用できない場合に有用と思われます。

2: 心臓

従来のcine MRIに加え、心筋遅延造影が可能となりました。これは心筋梗塞で細胞膜の破壊された心筋細胞内に流入した造影剤を検出するものです。撮像条件の設定が複雑で読影の際にピットフォールが多いことが難点ですが、症例を重ねることにより安定した検査にできるように試行錯誤しているところです。この検査は将来的には心筋血流SPECTに匹敵するのではないかとされています。

3: 拡散強調画像

水分子の拡散能を信号化したものであり、従来は発症1時間以内の急性期脳梗塞の検出に用いられてきましたが、これを体幹部に応用し、造影剤なしで悪性腫瘍を検出しやすくなりました。細胞間隙の液体が異常細胞により自由な移動を阻害されるためではないかとされています。ただし、胃癌や腎癌など検出が困難なものがあることや炎症巣なども同様に検出されてしまうといった欠点があります。

これら以外にも新たな撮像方法はありますので、適宜プロトコールに組み込み、話題が提供できるよう試行錯誤しているところです。

新任紹介

6月より新任いたしました2名をご紹介します。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

循環器科

循環器科医師が3名体制となり、充実いたしました。



医師
伊奈 雄二郎

リハビリテーション科

リハビリテーション科の医長が交代いたしました。



医長
山下 彰久



図1
腰椎に刺入されたスクリー周囲にアーチファクトが少ない

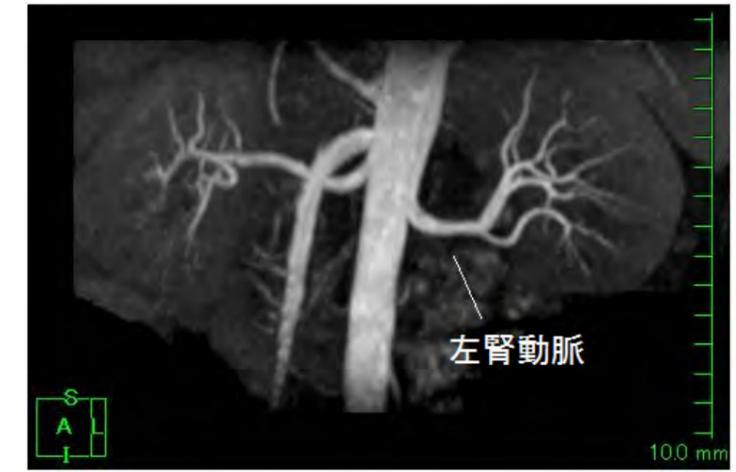


図2
非造影MR angiography (両側腎動脈)



平成22年度 第1回がん医療市民公開講座

テーマ 「**予防の時代**」に入った
子宮頸がん

● 総合司会：下関市立中央病院 外科系統括部長 ● 前田博敬氏

● **今、なぜ子宮頸がんか？**

● 下関市立中央病院 産科婦人科部長 ● 川崎憲欣氏

● **子宮頸がんの原因ウイルスとその予防ワクチン**

● 九州大学大学院医学研究院 生殖病態生理学(産科婦人科)准教授 ● 小林裕明氏

● **Q & A** (ご質問にお答えします)

日時 **2010/8/28** 14:00~16:00 (土)

場所 **海峡メッセ下関**
山口県国際総合センター
国際会議場 10階

入場無料
お申込み
先着200名

主催 ● 下関市立中央病院
後援 ● 山口県 ● 下関市教育委員会 ● 下関市医師会 ● 下関市連合自治会 ● 下関市連合婦人会
申込み ● お申込みは、電話・FAX等で申込まれるか、当院外科外来に備え付けの申込み書をご利用下さい。 ※必要事項…住所・氏名・連絡先

下関市立中央病院 庶務係 TEL 083-224-3831
〒750-8520 下関市向洋町1-13-1 FAX 083-224-3838

● 7月31日、8月1日に開催された緩和ケア研修会へ、たくさんの連携医の皆様にご参加いただきました。ありがとうございます。上記、がん医療市民公開講座にもぜひ足をお運びください。

残暑お見舞い申し上げます。さて表紙のお言葉を賜りました森山秀樹先生と緩和ケア研修会にご参加の方々に感謝します。また地域がん連携拠点病院の行事の一環である上記の市民公開講座にご参加、ならびに患者様へのご紹介をお願いいたします。また電子メール(3頁)には登録だけでなく、貴院のご意見ご質問もお待ちします。酷暑の日々、ご健康を祈ります。

広報年報委員長 吉田順一



2010年 Vol. (平成22年) **8/15 45**
下関市立中央病院
広報年報委員会
〒750-8520 下関市向洋町 1-13-1
TEL 083-231-4111
FAX 083-224-3838

e-mail cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

ホームページ http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/byoin/

目次	● 連携医の声 森山病院 院長 森山 秀樹 先生 1	● ご紹介 新任紹介 2
	● コラム 向洋の丘から 副院長 松尾 憲一 2	● ご案内 骨密度測定装置 高山 裕健 3
		● Information がん医療市民公開講座 「子宮頸がん」 4

連携医の声

森山病院

院長 森山 秀樹 先生



下関市立中央病院のスタッフの皆様には、いつも大変お世話になっており、心よりお礼申し上げます。

私ども森山病院は、昭和38年、宮田町に森山外科として有床診療所を設立した時より始まります。昭和46年には森山病院65床を新築して、診療所から病院に移行しました。昭和54年には増改築を行い137床となりました。平成5年には私が副院長として赴任しました。平成13年には病棟すべて新たに新築して134床となり現在に至っています。そして、平成14年、先代より院長職を引き継いでおります。

当院では「個性を尊重した医療とケアを目指します」という基本理念を掲げています。特に入院に

於いては、色々な病状の患者さんが入院されています。常時人工呼吸器が必要な方、高カロリー輸液の方、気管切開された方、経管栄養の方、緩和ケアの必要な方、リハビリの必要な方、など等。限られたマンパワーの中で様々なニーズに如何に対応していくかを大きな目標として日々努力しています。

日頃より市立中央病院の医師の方々や地域医療連携室のスタッフの方々より患者さんのご紹介をいただき、患者さんやご家族より森山病院で療養できて良かったと言われるように、安心して紹介できる病院を目指しておりますので、今後とも宜しくおねがいします。

▶ お盆休み期間も診療いたします

ご案内 ▶

下関市立中央病院では、お盆休み等の夏季休診日はございません。通常どおり患者様をご紹介いただけますのでよろしくお願い申し上げます。

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせについては

地域医療連携室

TEL 083 224-3860 FAX 083 224-3861

回復の鉄人

副院長
松尾 憲一

か？」との意欲満々の問い。少しびっくりしましたが、腹壁と胃の全摘ですので吻合部が3か所あって、拳上した空腸と食道の吻合部の強度のことに思いが至り、「まだ少し早いのでパターか軽いアプローチくらいなら良いでしょう。まだ無理してはいけませんよ」と答えました。

この患者さんは5、6年前に大腸癌の手術も受けておりましたので、手術侵襲が少し違うとは言え、術後経過については経験があったことは否めませんが。ところが、わたしに無断で、何と術後1ヶ月のときに18ホールのラウンドをしたのをあとで知ったのです。ボールは飛ばなかったそうですが、よくまあ体力があったな、よくまあ上腹部の広範囲の手術の後で体が動かせたなと思いましたが、それよりも吻合部が良くもったな(?)と驚かせられました。

今までは少なくとも3ヶ月くらいは重いものを持ちたらないほうが良いですよと指導して来ましたが、このような驚異的な経過をたどる人がいるのだと教えられ、指導の幅が大きく広がった思いがしました。化学療法を行ない無再発で1年を経ましたが、すでに飛距離は術前と全く変わらなくなっております。まさに鉄人というべきでしょう。

骨密度測定装置の更新

放射線部 主任技師
高山 裕健

■エックス線骨密度測定装置

精度・質の高い、最新 骨粗鬆症診療

骨密度測定装置が更新されましたので御紹介いたします。

骨の異変を早期に検知できる腰椎、大腿骨を直接計測する事が可能で、測定結果は自動解析で精度の高いデータが提供でき、質の高い骨粗鬆症(こつそしょうしょう)診療が行えます。

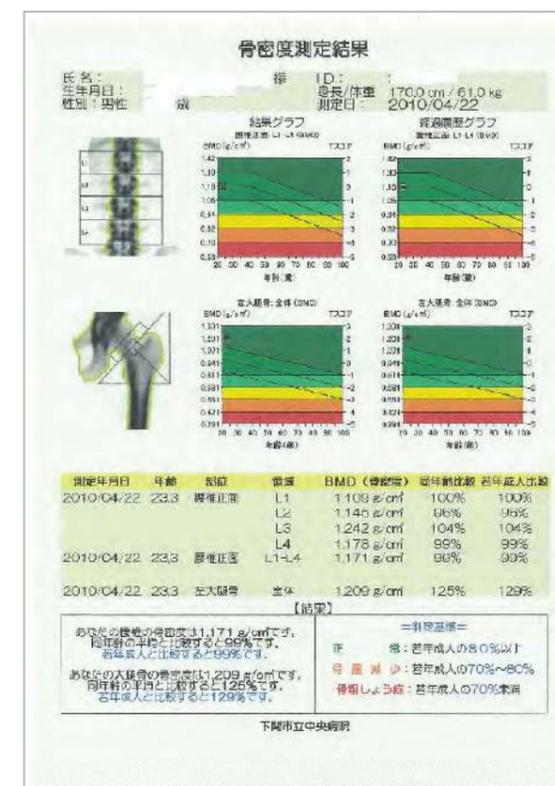
また、結果レポートがカラフルになり、非常にわかりやすいと患者様に好評です。

骨密度測定が必要な患者様がいらっしゃいましたら、この機会にぜひご紹介ください。

詳細は、当院地域医療連携室(P1.)へお問い合わせ下さい。



患者様向けレポートの例



新任 紹介

整形外科



医長
水内 秀城

8月1日付けで整形外科医師が新たに着任し、さらに充実いたしました。
今後とも、よろしくお願い申し上げます。

前職 Shiley Center for Orthopedic Research and Education at Scripps Clinic 研究員

■メール会員アドレス登録について

「中央病院非公開ホームページ」メール会員アドレス登録にご協力賜りありがとうございます。
今後も、引き続きご登録を受け付けますので、アドレス変更のご連絡や、ご質問等もあわせてお気軽にお問い合わせ下さい。

E mail cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

T E L 083-231-3831 中央病院経営管理課

「下関市立中央病院 第2回がん診療に携わる 医師に対する緩和ケア研修会」報告

● 外科部長 篠原 正博

今回第2回目となる緩和ケア研修会を、7月31日(土)8月1日(日)の2日間にわたり開催いたしました。2007年のがん対策推進基本計画で、緩和ケアの推進、「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことが目標として掲げられ、厚生労働省健康局長通知「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づいた研修会で、基礎的なコミュニケーション技術やつらさなどの精神症状への対応法をはじめ、緩和ケアの概念から知識、技術を習得する参加型研修会です。

また、本年度の診療報酬改定では、本研修会の修了者は、「がん性疼痛緩和指導管理料」を加算できるととなり、また、研修修了が算定要件のひとつとなる、「がん患者カウンセリング料」も新設され、企画責任者として、本研修会の質向上にますます責務を感じております。

さて今回も2日間に亘り、講義、討論やグループワー

ク、ロールプレイなどを行いました。つらさやせん妄といった精神腫瘍学では、関門医療センターの若林祐介先生、呼吸困難では山口宇部医療センター片山英樹先生、がん性疼痛の評価と治療では安岡病院ホスピス科柴田冬樹先生、地域連携と介護保険では、安岡病院医療相談室椋梨輝彦先生をお招きし、院内専門医や緩和ケアチームの協力もあり、充実した研修会となりました。御協力いただいた皆様、受講された先生方には深く感謝いたします。この研修会は、P E A C Eプロジェクトとして、全国的に展開されておりますが、一部下関地域に則した実践的な内容を取り入れる工夫もいたしました。開催目標を5年間とされておりますが、今後ますます充実した研修会となるよう努力いたしますので、皆様方の御協力を宜しくお願い申し上げます。

これからも、がん診療に携わる多くの先生方の御参加をお待ち申し上げます。



編集後記

今年の猛暑も9月下旬まで続き、ようやく秋の気配となりました。暑さのため体調を崩し入院された高齢者の方が多くおられました。昨年は新型インフルエンザで持ちきりでしたが、これからインフルエンザの季節を迎えます。昨年の経験を踏まえて予防接種を含めて対策も万全を期するところですが、高齢者の入院が多いのではと予想されます。山口県は高齢化がすすんでおり、下関市は独居老人が多いと聞きます。在宅での治療・介護の難しさを垣間見る思いです。

地域医療連携室長 坂井 尚二



2010年 Vol. (平成22年) 10/15 46
下関市立中央病院 広報年報委員会
〒750-8520 下関市向洋町 1-13-1
TEL 083-231-4111
FAX 083-224-3838

e-mail cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp ホームページ http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/byoin/

目次	● 連携医の声 みやざき耳鼻咽喉科 院長 宮崎 誠 先生 1	● ご報告 平成22年度 第1回がん医療市民公開講座 川崎 憲欣 3
	● コラム 向洋の丘から 内科系統括部長 坂井 尚二 2	● 新任紹介 循環器科 辛島 詠士 4
		● Report がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 篠原 正博 4

連携医の声

みやざき耳鼻咽喉科

院長 宮崎 誠 先生



今年は、偶然見つけた先輩の書き物から、下関市耳鼻咽喉科医会（毎月第三水曜日開催なので“三水会”と命名）が発足してから50年目とわかりました。私の父も含めて5名の開業医から始まったようです。そのうち、初代会長さんであった中島恒雄先生のみが100歳を超えてご存命です。その後、勤務医も加えてほしい25名ぐらいで推移している、小世帯の医会です。

耳鼻科医会の特徴は、積極的に医師会活動に参加し、行政・病診連携などに成果を上げて来たことです。中島恒雄先生は医師会長をなさいましたし、絶えることなく理事を送り、自分の科のことだけでなく、他の医師会員のため、市民のために頑張ってきています。全国的に見ても早くから行って来た下関市の難聴児への取り組みは、行政との関係のたまものだと思います。

父は耳鼻咽喉科医として、昭和28年から35年まで中央病院に勤務していました。父は平成元年診療所引退後、中央病院の各科にたびたびお世話になっていました。その父の最後をみとったのも貴院でした。

大変お世話になったことは感謝にたえませんが、一度だけ嫌な思いをしました。それは、手術をすすめられた時に、ベッドに横たわる父を前にして、シャーカステンのある机に座り、足をブラブラさせながら説明をはじめた医師がいたことです。手術するかどうか、家族、そして本人も必死で担当医の一言も聞き漏らすまいと真剣に聴いているのにです。しかし、先生方は言うに及ばず、看護師をはじめ多くのスタッフにささえられ、売店のおばさんには励まされ、食堂にてゆっくりさせていただき、父の入院中はきつく辛い中にもほっとする時間や場所も提供していただきました。現在、母も貴院に通院しています。家内も、入院手術でお世話になりました。私自身も救急にてお世話になったことがあります。紹介を受けていただく多数の患者さんだけではなく身内までもお世話になり本当に有り難く思っています。

これからも、市民の健康をささえる拠点として、頼りになる後方病院として、ますますのご発展をお祈り致します。

「中央病院非公開ホームページ」メール会員アドレス登録 について

常時、ご登録を受け付けますので、アドレス変更のご連絡や、ご質問等もあわせてお気軽にお問い合わせ下さい。

Email cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

新たに医療職につかれる方へ

内科系統括部長
坂井 尚二

昨今の医療の現場では医師不足のみならず、看護師を含めてコメディカルのスタッフ不足も深刻である。多くの人が就職難で苦しんでいる中、新たに医療職につく人は売手市場で比較的容易に就職先を見つける事ができよう。しかしここではもう一つ問題点である職場でのメンタルヘルスについて述べてみたい。せっかく志をもって就職したにも関わらず、仕事や職場で強い不安や悩み・ストレスを感じ、うつ症状を訴える人が多くなっている。その結果心身に変調を来し、本来の力を発揮できないまま長期休業や離職を余儀なくされる者が出てくる。これは組織パフォーマンスの低下を招き、ひいては医療の質の低下につながる。

まず現場が自分たちを守るためにストレスの原因を予防する事が大事である。ストレスの原因は主として
(1) 人間関係 (2) 能力と仕事のギャップ (3) 個人

的な問題に分類できる。ストレスの耐性は個人差があるが、耐性以上にストレスがかかると人体反応につながるのなら、耐性を高めるにはどのようにしたら良いだろうか。根本的なストレスの原因を取り除く事は非常に難しいが、特に人間関係の解決法のキーワードはコミュニケーションであろう。現場でのチーフはスタッフの話を積極的傾聴に心掛け、メンタルヘルスについての重要性を理解しておく必要がある。医療とはそもそも人間関係で成り立った仕事である。新たに医療職につく人には、少なからずその使命感をバックボーンに持ち、コミュニケーションを如何に良好にするかの能力を高めておく必要があると思うが、いささか厳しい要求であろうか。

心の健康を手に入れるためには、自らメンタルヘルスに目をむけ、主体的に対処しようとする能力を育てることが重要と思われる。

ご報告

平成22年度 第1回

がん医療市民公開講座報告

産婦人科部長
川崎 憲欣

地域がん診療連携拠点病院の啓蒙活動の一環として、当院が主催しているがん医療市民公開講座が、去る8月28日(土)、海峡メッセ下関において開催されました。通算6回目の開催となる今回は婦人科領域から、予防ワクチンの登場で話題になっている子宮頸がんをとりあげ、「予防の時代に入った子宮頸がん」と銘打って、前田博敬外科系統括部長の司会進行で行われました。

第1部では、今回の講座の導入となるべく、私が20分余、診断・治療・疫学等について概説させていただき、第2部で、お招きした九州大学大学院生殖病態生理学講座(産婦人科)の小林裕明准教授から、「子宮頸がんの原因ウイルスとその予防ワクチン」と題して、浸潤がんで妊孕性を遺す手術の紹介も混じえ、約60分間、子宮頸がんの予防に関して講演していただきました。子宮頸がんの原因は発癌性ヒトパピローマウイルスの持続感染である。このウイルスはほとんどが性的接触で感染し感染者の0.1%程ががんになる。感染から前癌状態を経て頸性がんになってくるのに10年程かかる(早くて数年)。自覚症状のない初期(前癌状態や上皮内癌)で発見できれば子宮頸部の一部を切除するだけで治すことができるので検診が重要である。20・30歳代の若年層で子宮頸が

んが増えてきている現況で、その原因として検診率が低い事やセックスデビューが低年化しているようである事などがあげられている。原因ウイルスに対するワクチンが臨床現場に登場してきて、ワクチン接種と検診の徹底により、子宮頸がんは予防できるという事が力説されました。

第3部は、参加者からの質問に演者がお答えするという企画でしたが、15件もの質問が寄せられ、会場使用の制限時間が心配された程でした。要領よい進行で、全てに回答でき、講演内容の理解を深めることができました。

今回の市民公開講座には、約100名の方々のご参加がありましたが、子宮頸がんの大部分が予防できる時代となってきたことを理解してもらえたのではないかと思います。また、ケーブルテレビ「J:COM」の取材も入り、9月に同テレビで放送されたとのこと。子宮頸がん予防ワクチンは、現在のところ任意接種となっておりますが、連携医の先生方のお近くで、接種を考慮しておられる方がいらっしゃいましたら、どうぞ中央病院の方へご相談下さい(15歳以下の方ですと小児科、16歳以上の方は産婦人科まで)。

新任 紹介

10月1日付けで循環器医師が新たに着任しました。

- 循環器科
- 医長 ● 辛島 詠士 (からしま えいじ)
- 米国メリーランド大学ボルティモア校より

「下関は初めてですが、早く慣れるように頑張ります！
宜しくお願いします。」

循環器科



医長
辛島 詠士



患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせについては

地域医療連携室

083 224-3860 083 224-3861
FAX

クリスマスツリー点灯

Information

師長会CS委員が中心になり、ご来院の方に楽しんでいただけるように玄関ロビーを飾り付けいたしました。12月26日頃までお楽しみいただける予定です。



平成22年度 第2回(通算第7回) がん医療市民公開講座のお知らせ

平成22年度 第2回がん医療市民公開講座

防げるのどのがん

- **喉頭がんの原因と治療**
 ● 下関市立中央病院 耳鼻咽喉科医長 **平 俊明 氏**
- **咽頭がんの原因・治療とその予防**
 ● 九州大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科学分野講師 **中島 寅彦 氏**
- **Q & A** (ご質問にお答えします)

日時 2011/ **2/19** 14:00~16:00 (土)

場所 **海峡メッセ下関**
 山口県国際総合センター
 国際会議場 10階

参加無料
 お申し込み
 先着200名様

主催 ● 下関市立中央病院
 後援 ● 山口県 ● 下関市教育委員会 ● 下関市医師会 ● 下関市連合自治会 ● 下関市連合婦人会
 申込み ● お申込みは、電話・FAX等で申込まれるか、当院各外来に備え付けの
 問合せ 申込書をご利用下さい。 ※必要事項…住所・氏名・連絡先・参加人数

下関市立中央病院 庶務係 TEL 083-224-3831
 〒750-8520 下関市向洋町1-13-1 FAX 083-224-3838

編集後記

上野主任看護師さん、認定看護師の勉強、ご苦労さまでした。国内では、看護師の高度専門職として認定看護師が制度化されていますが、さらには特定看護師の創設が議論されています。海外では、ナースプラクティショナー(NP)制度があり、NPは基本的には医師の指示を受けません、それに対して、日本の特定看護師はあくまでも医師の指示の下にあるという考えのようです。しかし、これは大胆な変革でしょう。保助看法に「看護師は、診療の補助として医療行為を行うことができる。」とありますが、診療の補助がどこまでなのか明快な線は引かれていません。これについては、今後の検討が楽しみです。医師不足・勤務医の疲弊・医療崩壊などに対して医従事者と行政の考え方に乖離があるように思えてなりません。

新春 院内コンサートのお知らせ

2011年1月30日(日) 午後1時30分~ 下関市立中央病院玄関ロビー
 病院職員によるミニコンサートを開催します。ご来院お待ちしております。

ブリッジ

2010年 Vol. (平成22年) **12/15** 47

下関市立中央病院
 広報年報委員会
 〒750-8520 下関市向洋町 1-13-1
 TEL 083-231-4111
 FAX 083-224-3838

e-mail cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp ホームページ http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/byoin/

目次	● 連携医の声 たかひら眼科 院長 松本 善博 先生 1	● 体験記 看護部 上野 妙子 3
次	● コラム 向洋の丘から 事務局長 山田 祐作 2	● Information がん医療市民公開講座のお知らせ など 4

連携医の声

たかひら眼科

院長 松本 博善 先生



平成22年4月より東駅の「たかひら眼科」を継承しました松本です。

私は、平成19年4月から平成22年3月まで中央病院に勤務させていただきました。中央病院での私の目標は、自分の守備範囲をわきまえたうえで、通常大学病院に紹介するような重症疾患である網膜剥離、糖尿病網膜症や黄斑疾患(目の奥の病気)などの治療(硝子体手術)を、下関市内で完結できるような体制をつくることでした。幸い中央病院のスタッフの方々の協力があっていただき、先に開業されましたが、今先生のご協力も得て、軌道にのせることができました。

その後、赴任当時よりいろいろお世話になっていた高比良先生から、「たかひら眼科」の継承の話があり、一度は九大医局からまだ退局することはまかりならぬとストップがかかりましたが、1年が経過した後何とか承諾を得ることができました。

現在は開業から8ヶ月あまりたち、細々と診療をさせていただいております。高比良先生の時にはあふれかえっていた外来も、今は余裕があります。開業しても硝子体手術の夢が捨てきれず、少し無理をして新しい機械を導入しました。光干渉断層計も導入し、時々中央病院からも紹介していただいております。白内障はもちろんです。網膜剥離などの緊急疾患を除き、硝子体手術や黄斑部の検査にも対応できるようになっています。

自分の宣伝ばかりになってしまいましたが、最近中央病院といえば、眼科ばかりでなく脳外科や放射線科にも紹介することが多く、大変お世話になっております。いつもわがままを聞いていただいて、大変助かっております。今後も持ちつ持たれつ関係を続けていけたらと思っています。最後になりましたが、平成23年4月より医院名を「まつもと眼科」とする予定です。よろしくお願致します。

「中央病院非公開ホームページ」メール会員アドレス登録 について

常時、ご登録を受け付けますので、アドレス変更のご連絡や、ご質問等もあわせてお気軽にお問い合わせ下さい。

Email cokeieik@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

長寿大国・長野から

事務局 長
山田 祐作

10月末、仕事の関係で錦秋の信州・飯田市を訪ねました。迫り来る山々が紅く染まり、道端には大きな実を誇らしげに立つ柿の木、刈り取った稲穂の逆さ干しの傍で振れるススキのあぜ道、遠くの校庭から響く子供達の歓声。日本人なら心の奥底に持っているこれぞ原風景、童絵の世界そのものだと思われ、海峽育ちの私ですら年甲斐もなく興奮を覚えました。晩秋の信州路、まさに一押しです。

さて、当市で開催された定住自立圏全国市町村長サミット医療分科会に出席し、基調講演の中で、医療需要と医師数との不均衡、治すから健康増進・予防・ケアへの方向転換など多くの重要課題が挙げられました。また、定住自立圏構想による地域医療の確保・充実策として、かかりつけ医の定着（総合医の育成）、住民への啓発・普及など「7つの処方箋」として発表され、次に全国各地の定住自立圏域における地域医療に関する取り組みフォーラムに参加し、大変に有意義で貴重な時間を過ごさせて頂きました。今後の市立病院経営の一助となるよう一層の努力に励みたいと思います。

因みに「定住自立圏構想」とは、政府の掲げる新成長戦略の一つで、地方圏において安心して暮らせる地域を各地に形成し地方圏から三大都市圏への人口流出を食止めるとともに、三大都市圏の住民にもそれぞれのライフ

ステージやライフスタイルに応じた居住の選択肢を提供し、地方圏への人の流れを創出するため、全国的な見地から推進していく構想です。因みに下関市は平成20年10月に本構想推進のための先行実施団体に選考されております。

【追記】 近郊の町、信州上田市を訪ねました。この地は、戦国時代の智将・真田昌幸、幸村親子を輩出した戦国口マン溢れる城下町であり、明治時代には「蚕都」と呼ばれ養蚕、製糸業の大中心地だったそうです。JR上田駅から約1km北へ行った所に上田城公園があり、その中央に建つ胸像に「蚕糸業の先覚者 三吉米熊像」と書かれておりました。この人物は、この地で開校された養蚕学校の初代校長を務め、信州はおろか、日本の蚕糸業の近代化に多大な貢献した偉人でありますとともに、実は、幕末のヒーロー坂本龍馬の盟友「槍の慎蔵」こと三吉慎蔵の長男として下関市長府で生まれ育っている方です。海のない国と海に囲まれた国との不思議な縁を感じました。

予談ですが、高杉晋作も剣道の修行で諸国漫遊のおり、上田市で30人余りの地元剣士と試合を行っており、対戦者名簿が城内博物館に保存されておりました。

当院は、地域がん診療連携拠点病院として、認定看護師の育成に力を入れています。今号と次号では、6月から久留米大学認定看護師教育課程でがん化学療法看護を学んだ職員の体験記を掲載いたします。



副主任看護師
上野 妙子



6ヶ月を振り返って

久留米大学認定看護師教育課程では、多くのことを学ぶことができました。

看護師になって十数年間、6ヶ月も臨床を離れて勉強するという機会のなかった私にとって、すべてのことが新鮮で、興味深い出来事の連続でした。まだ、自分のおこなってきた看護を振り返り、自分を見つめなおし、がん化学療法看護とは何であるかを真剣に考える機会になりました。

1981年以降、がんは日本人の死因の第1位であり、がんといえはすぐに死を連想してしまいます。しかし、医療の進歩に伴い、全悪性新生物の5年生存率は50%を超え、今や多くのがんは慢性疾患として位置づけられ、患者の多くはがんとともに生きています。現在の化学療法では血液疾患など一部の疾患を除いては、治癒が期待できません。そのため、がん化学療法看護とは、がんとともに生きるための看護でもあるのです。がんとともに生きる。つまり、生と死という対極にある概念が混在し

ている複雑な感情をもっている状況であり、そのような患者が安心して治療を継続するにはどうしたらよいか、私は、がん化学療法看護に携わる者として、これからも、がんとともに生きるという意味を常に考えながら看護していきたいと思っています。

また、分子標的治療薬の開発が積極的におこなわれ、がん化学療法は日々進化を遂げています。これからも、新しい知識を習得し、常に向上心を持ち続け、がん医療の均てん化のために貢献できるよう努力していきたいと考えています。

私にこのような機会を与えてくださった看護部長をはじめ、病院関係者の皆さま、この場を借りて深くお礼申し上げます。また、私を色々な面からサポートしてくれた家族や友人にも感謝したいと思います。

最後に、6ヶ月間一緒に試練を乗り越えてきた仲間たち、ご指導して下さった先生方、実習指導者の方々、本当にありがとうございました。

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせについては

地域医療連携室

083 224-3860 083 FAX 224-3861